

外国人と人権～多文化共生のまちづくりをめざして～

小都市には、留学や技能実習などの目的で、ネパールやフィリピン、ベトナムなど27か国、1016人(平成30年12月末現在)の外国人が暮らしています。

外国人の中には、日本語を正しく理解できないために、生活に必要な情報を得られなかったり、地域や職場、学校でうまく意思疎通がとれずに、困難や不利益を感じている人も少なくありません。

日本人も海外に行けば“外国人”です。多文化共生の第一歩として、日本人一人ひとりが、外国人とのコミュニケーションについて考えてみましょう。



「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、尊重し合い、助け合いながら、ともに生きていく社会のことです。

「やさしい日本語」を活用してみよう

「やさしい日本語」とは、普段使う日本語よりも簡単で、外国人にも分かりやすいように配慮した日本語のことです。

平成7年の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく、多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず、必要な情報を得ることができない人もいました。災害時など緊急の場合は、短時間に複数の言語を翻訳することは難しく、「誤訳」が生じる可能性もあります。そこで、災害情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」伝えるために、弘前大学の社会言語学研究室が提案したのが「やさしい日本語」です。

地域のお知らせや広報、チラシなど、日常生活で「やさしい日本語」を活用することで、幅広い国籍の外国人に情報を提供できます。また、「やさしい日本語」の活用が外国人の日本語習得にもつながり、生活の利便性も高めるといわれています。



福岡県が作成している「外国人のための防災ハンドブック」にも“やさしい日本語”が活用されています。

やさしい日本語の作り方

- ・簡単な言葉を使う
(目安は小学2・3年生で習う言葉)
- ・漢字にはふりがなをつける
- ・文は短く、文節に区切りを入れる
- ・あいまいな表現を避ける
- ・二重否定の表現を避ける
- ・文末はなるべく統一する
- ・外来語やカタカナはなるべく避ける

普段の日本語	やさしい日本語
参観日は出席しますか。	お父さんや お母さんなどが 子どもの 学校に行って、授業を みる日があります。行きますか。
ごみは分別して指定日に出してください。	ごみは 分ける きまりが あります。ごみを出す日は 決まっています。
迅速な避難が必要です。	早く 逃げて ください。 (早い 避難が 必要です)

「やさしい日本語」に正解はありません。
その人にとって必要な情報が伝わるよう工夫することが大切です。

